

第6回京都府流域下水道事業経営審議会（開催結果）

1 日 時 令和7年8月20日（水） 午後3時～4時30分

2 場 所 京都ブライトンホテル「慶祥の間」
(ZoomによるWeb会議併用)

3 出席者 委員 田中会長、西垣副会長、岩崎委員、上田委員、河合委員、川池委員、川田委員、佐藤（裕）委員、佐藤（陽）委員、杉浦委員、藤木委員、本部委員、山仲委員、吉川委員
(城崎委員、安田委員欠席)

京都府 石井建設交通部長、渡邊建設交通部技監、曾和建設交通部公営企業管理監兼副部長、西崎公営企業経営課長、工藤下水道政策課長 他

4 結果概要

- 京都府から令和6年度決算状況を報告
- 「京都府流域下水道事業経営戦略」中間見直し（中間案）について審議
- 経営戦略（中間案）については、審議会での意見を踏まえて一部修正の上、9月頃にパブリックコメントを行う。
- 「下水道管理のあり方検討部会」の設置が承認され、会長が同部会の委員を指名

5 主なやり取り

○「京都府流域下水道事業経営戦略」中間見直し（中間案）について
(意見)

- ・ 京都府の流域下水道は、府内だけでなく、下流の大阪・兵庫などの重要な水道水源である淀川の水質保全の役割を担っている点をもっと強調したほうがよい。

(質問)

- ① 建設費に係る市町負担金の見直しについては、流域下水道はすべて京都府の資産であることを踏まえると、正しい方向性であると考えられる。進め方については、隣接府県と連携して進める方法や対象を絞りつつ徐々に拡大していく方法もあるのではないかと。

(京都府回答)

建設費に係る市町負担金の見直しについては、流域市町と丁寧な議論を行いながら、検討を進めていきたい。財政当局との調整にあたってはいただいたアイデアも参考にさせていただきたい。

- ② 「持続的経営に向けた取組 ～執行体制・技術力確保～」の説明で、60歳代の職員分布が多くなっているが、現体制で地震等、想定外のことが起こった場合の対応は可能かと。

(京都府回答)

現状では、災害時には対応マニュアルに基づき職員で対応している。今後の民間業者の活用に関する議論の際には災害時等への対応についても十分議論してまいりたい。

以上